

大失業時代が来るらしい。30年後に人工知能が人間の知能を完全に追い越し、今ある職業の半分は取って代わられるからだ。生き残るのは、創る、つなぐ、癒やす、の3タイプの仕事だそう。職業の半分が消えるから、「就職に有利な学問」の大半も消えるかもしれない。

そんな世の中を、人生100年時代で生きる若者が、何を学べば良いかと尋ねる。残念なが



としゆき 保井 俊之

「デキる」から「創る」へ

ら、分からないと答えるしかない。スマートフォン出現とコロナ禍を30年前に予測できなかった私は、30年後の社会はさらに変化すると赤面するほかない。

でも確実なことが二つある。

何歳になっても自分で学びを探し、学びを実践する人は、社会変化に適応できる。そして未来を予測する最善の方法は自分であるべき未来を創ること。未来を自ら創り、人をつなぎ癒やす

人をチェンジメーカーと呼ぶ。

大学での学びのモデルは急速に変化している。地域の俊英たちが「上京」し、高い学費と施設費と下宿代を払い、階段教室

の座学とバイトに明け暮れる。

そして新卒一括採用後の数年間の企業研修でようやく一人前と認められる。この社会人育成モデルが終わりかけている。コロナ禍がその流れを加速した。「上京」したはずの大学生

の多くは、地元でオンライン授業を受けている。そして大半の企業には、一括大量採用で採った新卒を長い研修で社会人に育成する余裕はもはやない。

学びが「デキる」人でなく、

学びを「創る」人、仕事で「できる」人ではなく仕事を「創る」人が欲しい。これが大失業時代の社会ニーズだ。社会を知る学問ではなく、社会を変えるため

財が生き残る。SDGs（持続可能な開発目標）に代表される地球大のウェルビーイング（幸せな状態）が到達目標だ。

今年4月、22世紀型大学で、

全科目能動型学習により「社会を変える」をリアルで学ぶ、広島県立で世界に開かれた観啓大（くわんけい）学が広島市中心部に開学した。1期生が巣立つ4年後が待ち遠しい。（観啓大ソーシャルシステムデザイン学部長・教授）